

シンポジウム

# 『北海道の海に乱立する洋上風力発電の安全性を問う ～能登半島地震から見えた海底活断層の脅威～』

2024年7月21日(日)

13:00～17:30(開場12:30)

北海道立道民活動センター かでのる2・7

4階大会議室(定員200名)

札幌市中央区北2条西7丁目

資料代500円

共催:北海道風力発電問題ネットワーク

一般社団法人 北海道自然保護協会

後援:一般社団法人 日本国土・環境保全協会 公益財団法人 日本野鳥の会

令和6年能登半島地震によって、日本海の海底活断層の活動により地震・津波が発生する危険性が高いことが明らかになりました。これまで海底活断層のデータは災害予測のための評価対象とされてこなかったこともあり、被害が甚大になったと専門家は指摘しています。

現在、北海道を含む日本海側では大規模な洋上風力発電が続々と稼働していますが、その建設にあたっては海底活断層が引き起こす地震・津波の影響が十分に考慮されておらず、高さが300メートルにも達する風車が数十～数百基という規模で沿岸近くに造られる風力発電施設が倒壊し沿岸に押し寄せれば、私たちの生活にとって「凶器」となりうるという新たな問題が浮上しています。

シンポジウム「北海道の海に乱立する洋上風力発電の安全性を問う～能登半島地震から見た海底活断層の脅威～」では、第一部で地震、防災の専門家から海底活断層に関する最新の知見をご紹介いただき、第二部では洋上風力発電の建設が進む北海道、秋田、山形から現状報告を行うとともに、生活圏に近い沿岸部に建設されることでより懸念が大きくなっている低周波音による健康への影響と、建設区域と飛行ルートが重なる渡り鳥など野鳥への影響をそれぞれの専門家から解説していただきます。

洋上風力発電はCO<sub>2</sub>削減の切り札として、また増大する一方のエネルギー需要に対する「再生可能でクリーンな」供給源として国主導で強力に推進されていますが、様々な評価や予測を行うために十分なデータさえないというのが現状です。このシンポジウムでは地域の住民と自然を守るという観点から様々な問題点を提示し、私たちに出来ることはなにかを共に考えたいと思います。どうぞご参加いただきますようお願い致します。

## 第一部 能登半島地震から見た海底活断層の脅威

- 谷岡勇市郎氏（北海道大学名誉教授 北海道大学大学院理学研究院特任教授）  
「日本海における海底活断層に伴う津波について～能登半島地震から学ぶ～」
- 鈴木猛康氏（山梨大学名誉教授 NPO法人 防災推進機構理事長）  
「能登半島地震を教訓として日本海沿岸部の洋上風力に求められる安全性」

## 第二部 洋上風力発電の安全性を問う

### 1. 地域からの報告

- 北海道石狩湾 安田秀子氏（北海道風力発電問題ネットワーク副代表）
- 秋田県 山下友宏氏（風力発電を地域から考える全国協議会事務局 オンライン参加）
- 山形県 三原容子氏（鳥海山沖洋上風力発電を考える会共同代表）

### 2. 専門家による解説・提言

- 田鎖順太氏（北海道大学大学院工学研究院助教）  
「北海道内の『有望な区域』における洋上風力発電では周辺住民の多くに風車騒音による健康影響が生じる可能性が高い」
- 浦達也氏（公益財団法人日本野鳥の会自然保護室主任研究員）  
「洋上風力発電と渡り鳥」

### 3. 総合討論 質疑応答・意見交換

■シンポジウムはZoomによる参加も可能です。7/13（土）までに右QRコードから、必要事項をご記入の上お申し込み下さい。※定員100名（先着順）※定員になり次第締め切らせていただきます。



■シンポジウム開催にあたりご寄付を募っております。下記の口座までご支援を賜りますようお願い申し上げます。

北海道銀行 花川支店 普通預金 口座番号:0997560  
なまえ:ホツカイドウフウリヨクハツデンモンダイネットワーク